新聞　3/26
新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格 3,738円(税込み 4,037円)、1部売り(税込み)朝刊 150円、夕刊 50円　第3種郵便物認可

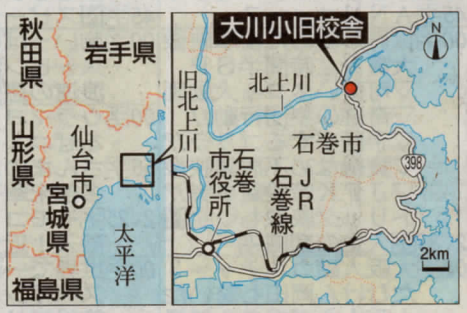
大川小旧校舎 保存へ

石巻の震災遺構

賛否の中 市が判断

児童ら84人が犠牲になった大川小学校旧校舎＝宮城県石巻市、福留庸友撮影

東日本大震災の津波で児童ら84人が犠牲になった宮城県石巻市の大川小学校旧校舎について、市は震災遺構として保存する方針を固めた。遺族や住民は保存と解体で意見が分かれていたが、教訓の伝承や将来の防災教育に役立つと判断した。亀山紘(ひろし)市長が26日に記者会見して正式に発表する。



校舎全体を保存した上で、周辺を公園にして犠牲者への追悼や祈りの場とする考え。亀山市長は25日、「(周辺に覆いを設けるなどして保存に)反対する方々に配慮しないといけない」と述べた。

大川小では地震発生後、教職員や児童らは校庭にとどまった。約50分後に避難を始めたが、直後に津波が押し寄せて巻き込まれた。遺族や住民からは「後世に教訓を伝えるために保存すべきだ」という意見と「見るのがつらい」として解体を求める意見が出ていた。

大川小で次女を亡くした鈴木典行さん(51)は「いろんな意見があり、正解はない」という。それでも「壊して後悔しても遅い。まずは残し、教訓の伝承の仕方を考えるべきだ」と話す。孫2人を大川小で亡くした阿部良助さん(68)は解体を求めてきた。「もし残すのであれば、中途半端な残し方では意味がない。解体を望む住民が納得するような残し方をしてほしい。さび付いていくような残し方では、惨めな気持ちになる」と話した。

震災遺構の保存や解体をめぐる議論は、各地で続く。職員ら43人が犠牲になった宮城県南三陸町の防災対策庁舎も、遺族らの意見が割れた。町は昨年6月、「議論する時間が必要」として、震災から20年になる2031年3月まで県が保有するという案を受け入れることにした。(茂木克信)